

在外琉球王国文化財調査研究事業報告 — The Smithsonian Institution's  
Museum Support Centre (MSC) 所蔵の琉球王国関係文化財50件について —

篠原 あかね 崎原 恭子

A Report on research project on cultural properties of the Ryukyu Kingdom overseas — Material  
Note “The Ryukyu collection stored in The Smithsonian Institution's Museum Support Centre(MSC)—

Akane SHINOHARA, Kyoko SAKIHARA

沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要 第17号別刷

2024年3月15日

Reprinted from the

Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.17

March, 2024



## 在外琉球王国文化財調査研究事業報告 — The Smithsonian Institution's Museum Support Centre (MSC) 所蔵の琉 球王国関係文化財50件について —

篠原 あかね<sup>1)</sup> 崎原 恭子<sup>1)</sup>

A Report on research project on cultural properties of the Ryukyu Kingdom overseas  
—Material Note “The Ryukyu collection stored in The Smithsonian Institution's Museum Support Centre(MSC)—

Akane SHINOHARA<sup>1)</sup>, Kyoko SAKIHARA<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

琉球王国時代の貴重な文化財は、譲渡や売買だけでなく、沖縄戦の戦利品として不法に持ち去られる等、様々な理由で国外に流出したものが多くある。沖縄県教育委員会が実施した在外沖縄関連文化財調査等によって、これまでに多くの資料の所在が確認されてきた。しかし、未調査の施設があるほか、日本や中国等の他国の資料に分類されている可能性がある等、さらなる調査研究と情報収集が必要な状況である。そのような背景のもと、令和2年度(2020)に在外琉球王国文化財調査研究事業がスタートした。しかし、新型コロナウイルスの影響で2年間渡米することができなかつたため、調査の準備を続けながら、在外琉球王国文化財の研究に関するパネル展などを実施した。令和5年度(2023)になり、渡米することができるようになったため、第1回目の調査を行った。

これまでも、アメリカにある琉球王国文化財に関する調査は度々行われてきた。その中から、スミソニアン博物館に関連する研究を中心に、先行研究の一部を紹介する。先に挙げた沖縄県教育委員会による事業では、1990～1994年にアメリカ34施設等で1,041点の資料を調査し、1995～1999年にヨーロッパ22施設等で470点の資料を調査した。その成果は報告書で公開されている。<sup>1)</sup>

また元在沖米国総領事館広報・文化担当補佐である高安藤は、2003年にアメリカの博物館施設で、

沖縄関連文化財がどのような経緯で収蔵されたのか調査し、37施設に1,984点の沖縄関連文化財が所蔵されていることを明らかにした。その成果は修士論文としてまとめたという。

そして、2015～2016年には沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課によるソフトパワー発信事業で学芸員らが渡米した機会に合わせて、スミソニアン協会ミュージアムサポートセンター(The Smithsonian Institution's Museum Support Centre/以下MSC)で染織資料を中心に2日間調査が行われ、1887年に収集された10件の資料について調査結果が報告された。<sup>2)</sup>

他にも、沖縄県内の博物館等の展覧会に関連した調査や、高良倉吉らによる調査<sup>3)</sup>、NPO法人琉米歴史研究会等民間団体や個人による調査等もあり、度々在外文化財に関する調査が行われてきた。

また、スミソニアン博物館が所蔵する資料のうち、ペリーが1853年以降に日本から持ち帰った資料群の概要については、1995年にChang-su Houchins(チャンスー・ハウチンズ)の研究で報告されているが、琉球王国文化財の専門家による詳細な調査とそのデータの公開はされていなかった。<sup>4)</sup>ペリーが琉球から持ち帰った資料は、収集した年代から製作時期を推定できるため、基準作となり得る貴重な資料であることから、詳細調査と全容の解明、文字史料との照合等が課題となっていた。また、スミソニアン博物館に限らず、欧米の琉球王国文化財に

<sup>1)</sup> 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1  
Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

ついて、沖縄県としての継続した調査は、1999年以降行われていない。流出文化財の返還も課題となっている中で、在外文化財についての継続的な調査と、調査データの成果を公表することが必要であった。

## 2. 調査概要

本事業の調査は、2023年9月24日(日)～10月3日(火)の日程で、アメリカ(ワシントンD.C.(コロンビア特別区)、メリーランド州)を訪問した。<sup>5</sup> 9月25日は、沖縄県ワシントン事務所(基地対策課ワシントン駐在)、ジョージ・ワシントン大学図書館、国務省教育文化局、日本大使館の4機関を訪問し、それぞれで本事業への協力依頼や図書の寄贈等を行った。9月26日～29日はMSCで資料調査を実施した。9月30日～10月1日はアナポリス海軍兵学校、ワシントン記念塔、リンカーン記念堂、国立航空宇宙博物館(本館)、国立アジア美術館(フリーア美術館/サックラー・ギャラリー)、国立自然史博物館、ナショナル・ギャラリー等を視察した。

資料調査をしたMSCは、メリーランド州にあるスミソニアン協会のコレクションを保管する収蔵施設で、1983年に建設された。5,400万点以上の収蔵品が保管されているという。事前調査から、MSCの人類学コレクションに239件の琉球・沖縄関係資料が収蔵されていることがわかった。限られた時間で全てを調査することは難しいため、資料の来歴によって整理し、以下の優先順で調査をする方針とした。

- (1) ペリーが1853～1854年に琉球で収集した資料(以下、ペリーコレクション)15件
- (2) 1887年に日本政府と東京教育博物館から収集された琉球関連資料の内、17件
- (3) 1945年までに収集され1982年に収蔵された元軍人のグラント寄贈資料96件
- (4) その他、フランク寄贈資料等

上記(1)から(4)の優先順位に基づいて、調査を実施し、合計50件の資料を調査した。調査は篠原あかねと崎原恭子の2名で行った。調査日ごとの調査資料の内訳は以下のとおりである。

26日(火)：ペリーコレクション(漆器2点、陶器3点、キセル4本)

27日(水)：ペリーコレクション(キセル6本の

調査と9本の写真撮影、博多帯1点)

日本政府からの購入資料(黒朝衣1領、宝蔵1点、タオルハンガー1セット)。また、MSC内にあるNational Anthropological Archives(国立人類学アーカイブ)で、ウィリアム・ハイネのスケッチ一式を調査

28日(木)：日本政府からの購入資料(結髪見本(女性用)1式、芭蕉紙等2件、陶器9件、団扇・扇3点、ウブル1点、馬具セット1式)

ペリーコレクションの追加調査(法量)、グラント寄贈資料の事前確認

29日(金)：グラント寄贈資料(染織、陶器、民具、歴史資料等)、フランク寄贈資料(紅型衣裳1領、芭蕉緋裂1点)

## 3. 調査した資料の概要

今回調査した50件の一覧を87～93頁に掲載した。法量等はこれを参照してほしい。ここでは優先順の4つのグループごとにその概要と所見を記す。

(1) ペリーが1853～1854年に琉球で収集した資料15件

ペリーは5回に渡って那覇に寄港しており、今回調査した15件は、1853～1854年に収集された資料として伝来している。ペリーと琉球の間でやりとりされた文物については、複数の史料がある。一例として、琉球側の記録である『琉球王国評定所文書』の1853年5月12日付の記述をみると、下記の物を贈っていたことがわかる。

(総理官より)

扇子二十本、杉原紙二十帖、煙草入六組 きせる入付、真岡布三端、浅地島木綿布一端、紺地島木綿布二端、赤島布二端、白細上布三端、煙草五斤、飯箱二、吸物椀一束、弁当一通、焼酎二壺 二十五盃入(布政官三人より)

扇子十本宛、白麻二十帖宛、煙草入二組宛 きせる入付、煙草二斤宛、赤島布一端、紺島布一端宛、蠟燭五十挺宛、焼酎一壺宛 二十五盃入(後略)<sup>6</sup>

上記には、琉球産と判断できる染織品等がある一方で、煙草入やきせる、飯箱等、琉球産か国外産か

文字だけでは判断できないものも多く、各資料がどのようなものなのかわかっていなかった。そのため、今回の調査で物と文字史料を照らし合わせることで、当時の実情に少しでも近付ける可能性があった。

調査した15件の内訳は、漆器2点、陶器3点、博多帯1点、キセル9本だった。No.1 E20-0 Lidded Lacquerware BoxとNo.2 E21-0 Lidded Lacquerware Boxは装飾が異なるものの、同じ構造で、同一の産地で製作されたものと考えられるが、琉球製ではない。陶器は、1点が水差しで、2点が蓋物である。No.3 E282-0 Pottery Water Pitcherは、壺屋で生産されるあんびんに類似しているが、薩摩焼と考えられる。<sup>7</sup>No.4 E172-0 Covered Pottery JarとNo.5 E176-0 Covered Pottery Jarは大きさが異なる2点で、どちらも底部に凸字で「信號」の判子が押されている。(図1) また露胎している部分を見ると白く、砂つぶ状の混ざり物があることから琉球産ではなく、先行研究では瀬戸産とされている(Chang-su Houchins 1995)。



(図1) No.4 E176-0 Covered Pottery Jarの底部

No.6 E27-0 Beltは博多帯で、紺の地色に白、黄、黒の色糸を使い、白と黒で2種類の経浮織を入れている。太さが均一な無燃の単糸を使っている。

No.7 E35-0～No.15 E43-0 Smoking Pipe 9

本はすべての雁首と吸口は真鍮で、羅宇は竹製である。羅宇には焼き付けで模様を表しているものがあり、中には浮世絵風の遊女を描くものもあった。また、吸口に彫金で梅の花を描くものもあった。(図2)(図3)



(図2) No.13 E41-0 Smoking Pipe



(図3) No.13 E41-0 Smoking Pipeの吸口部分拡大

以上のペリーコレクション15件は、すべて琉球以外で製作されたものだった。これらは先に述べた『琉球王国評定所文書』の「飯箱」や「きせる」のように一致する資料もあった。どの資料がいつ贈られたのか特定はできないが、文字でしか知られていなかった物の詳細を調べる機会となった。琉球に日本の各地の工芸品が流入していたことを証明する資料として貴重なものである。またすべてに共通する特徴として、高級品ではなく、日常的な生活の中で使うものであることと、使用感がなく、未使用品と考えられることが挙げられる。使うためではなく、資料として収集したものと考えられる。

ペリーは琉球からおびた数多くの文物を収集していたことが、『評定所文書』や『遠征記』、『随行記』等に記載されているが、現存資料の情報は少ない。MSCには、ペリーが日本中から収集した多数

の資料が収蔵されているが、琉球から持ち帰ったものは15件のみだという。今回調査した15件は、来歴から歴史的価値が高く、収集年がわかる点で基準作になるものである。ペリー関連資料については、今後も情報収集を続けていく必要がある。

(2) 1887年に日本政府と東京教育博物館から収集された琉球関連資料の内、17件

調査した資料の内訳は、黒朝衣1領、宝蔵1点、結髪見本(女性用)1式、芭蕉紙等1件、陶器9件、団扇・扇3点、ウブル1点、タオルハンガー1セット、馬具セット1式である。

1887年に日本政府から購入した来歴の資料は合計25件ある。先行研究(與那嶺2017)で報告されている資料は除外し、16件を調査した。<sup>8</sup>受入れ次第は「Department Of Education Japan(日本の文部省からの寄贈品)」となっており、先行研究の中で、文部省が設置した東京教育博物館が教育的交流を目的として寄贈した可能性が指摘されている。同じ1887年に「Tokyo Educational Museum(東京教育博物館)」から受入した資料(No. 33 E129476 Saddle)が1件あったため、これを含めて調査することとした。これらの資料が収集された時期は、世界から琉球文化に対する関心が寄せられていたようで、1888年にはドイツが日本政府に依頼して琉球資料一式(543点)を購入・収集している。現在もその一部がベルリン国立民族学博物館に保管されている。(佐々木ほか1997、祝嶺2014<sup>9</sup>)また当時日本政府が同じ資料一式を収集しており、それらは現在の東京国立博物館に所蔵されている。収集年から製作時期が推測できるため、基準作となる貴重なコレクション群である。今回調査した資料も、同時代であり、類似した資料が多いため、今後の研究的価値が高い。

主要な資料をいくつか紹介すると、No. 16 E128289-0 Woman's Summer Kimonoは、大変上質な芭蕉の糸を使った黒朝衣で、保存状態も良好である。女性用とされているが、揚げが腰の位置にあることから男性用の可能性がある。(図4)



(図4) No. 16 E128289-0 Woman's Summer Kimono

また、陶器9件は、すべて琉球の壺屋で生産された上焼と考えられる。(図5)



(図5) No. 22から29の集合

No. 24 E128304-0 Rice Bowlは、絵付けなどはないものの、器形や釉調が沖縄県指定有形文化財「枝梅竹文赤絵碗」と類似している。今後、比較研究することで、19世紀末の壺屋の上焼を明らかにする一端になると考えられる。また、扇とウブル、タオルハンガーと馬具等の民具(No.19、No.30、No.31、No.33)は、沖縄の環境では劣化しやすい民具が大変良い状態で保存されている点が貴重である。

以上の17件は、人の暮らしに関わる資料を体系的に収集したことがうかがえる資料群であり、王国時代末期から近代初めの工芸史を明らかにする一端になるものといえる。

(3) 1945年までに収集され1982年に収蔵された

元軍人のグラント寄贈資料96件のうち14件内訳は、漆器5件、木製品2件、陶器（カラカラ）1件、染織品（芭蕉布）1領、三線1丁、草履4件である。

グラント寄贈資料は、兵役に就いていたロバート・W・グラントが、第二次世界大戦中の1942～1946年にかけて収集したコレクションである。主にミクロネシアで収集し、フィリピンや、グラントが空軍勤務だったエリス島からも収集されたようである。またマーシャル諸島における日本軍の物品も収集していたようである。このコレクションのうち、96件が琉球関係としてデータベースに掲載されていた。少なくとも戦前の資料ということで調査の優先順位を高くしたが、実際に確認したところ、比較的新しい資料や日本産の資料が多く含まれていたため、調査対象をさらに絞り込むこととし、基準を以下のとおりとして調査を実施した。

- ① 琉球王国時代に製作されたと思われるもの
- ② 戦前に製作されたもので、琉球王国時代の製作技法等が用いられているもの
- ③ 戦前に製作されたもので、琉球王国時代の資料の比較対象として際立つもの

上記以外の資料は今回の調査の対象外として、写真撮影のみとした。

調査した資料は14件である。染織、陶器、民具等が含まれ、庶民が日常的な生活で使用している資料を収集していることから、民俗資料としての価値が高い。なお、陶器や染織には、琉球・沖縄産（Ryukyuan）として登録されていたが、日本製のものが多かった。

#### （4）その他、フランク寄贈資料等

（1）～（3）以外で琉球・沖縄研究の参考になりそうな資料をピックアップし、染織資料3件と、ウィリアム・ハイネのスケッチを調査対象とした。

No. 48 E402851 Kimono（紅型衣裳）（図6）は、「1920年にMarquis Sho（尚侯爵）からSoetu Yanagi（柳宗悦）が購入し、Mr. Yanagiから寄贈者（Mrs. Frank O. Blake）が購入した」（元は英文）との来歴があるものである。Marquis Shoは尚家21代当主である尚昌を示すと考えられる。この来歴は、高安藤が調査した際に収集した台帳に記載さ

れていたもので、ウェブサイト上で公開されているデータベースでは閲覧することができない。この来歴によると、本衣裳は王家旧蔵品であり、なおかつ、尚昌と柳宗悦の交流を示す貴重な資料といえる。柳とフランクの関係性はまだ明らかでないが、王家旧蔵品がMSCに収蔵されていることは、今回の調査で初めて確認されたことである。

本衣裳には2種類の紅型が使われている。身頃、衿、衿が染分地松鶴梅菊模様紅型木綿で、両袖、襦、衿の一部が花色地雪輪松梅模様紅型木綿である。どちらも片面染めで、裏地はない単衣裳となっている。また所々に布を解いた形跡がみられるため、元々は袷だったものを後に単に縫い直した可能性がある。マイクロスコプでの撮影を行ったところ、染分地松鶴梅菊模様紅型木綿の朱、青、黄等主要な色は粒子が確認できたため顔料とわかった。今後、沖縄県内の資料と比較することで、顔料・染料の成分を推定することも可能と思われる。



（図6）No. 48 E402851 Kimono（紅型衣裳）

No. 48 E402899 Cloth Okinawa（芭蕉布裂）も、No. 47紅型衣裳と同じMrs. Frank O. Blakeからの寄贈品である。それ以上の来歴は不明だが、

同年に寄贈されていることから、尚侯爵や柳宗悦が関係している可能性も考えられる。均一で細い糸を織った上質な芭蕉布である。(図7)



(図7) マイクロスコップで撮影した、No.49 E402899 Cloth Okinawa (芭蕉布裂) の拡大写真

No. 50 E402268 Length Of Cloth は、1964年以前に収集された資料ということで調査対象とした。

No.16 NMNH A Art USNM 086441.00-086444.00 ウィリアム・ハイネのスケッチは、National Anthropological Archives (国立人類学アーカイブ) で、保管されている。閲覧できた6枚中琉球関係は「Loo Choo Woman」の1枚のみだった。タイトルは表面の左下に記され、裏面にハイネが描いたスケッチである旨が記されていた。なお、2022年5月4日付の沖縄タイムスで紹介されていたダドリュエによるスケッチの実物資料の所在も調べたが、確認することができなかった。保管場所を調べて情報提供いただくこととなったので、今後の課題とした。

## 5. まとめ

令和5年度在外琉球王国文化財調査研究事業では、MSC所蔵の琉球王国文化財50件を調査することができた。各資料について、詳細な採寸と撮影ができたため、重要な研究データになると思われる。特に、今まで詳細がわかっていなかったペリーコレクションのデータを収集できたことは成果だったといえる。また、No.48 E402851 Kimono (紅型衣裳) について王家旧蔵品であることがわかり、その来歴を含めて紹介することができた。

本稿では概要を報告するのみだったが、今後データを蓄積し、より詳細な研究を進めていきたい。

また、今回の調査を通じて、国務省やスミソニアン博物館関係者等との人的な交流ができたことで、琉球王国文化財の情報収集や、流出文化財に関する情報提供を求めることができた。インターネット上のデータベース検索や、メールなどで調べられることも多いが、実際に顔を合わせて伝えることの重要性を再認識することにもなった。今後も在外琉球王国文化財について情報収集と情報発信を続けていくためにも、継続した調査が望まれる。なお本事業は、次年度以降もアメリカ国内を対象に継続予定である。

最後に、本事業の実施にあたりご協力くださった皆さまに御礼申し上げます。誠にありがとうございました。(順不同)

スミソニアン自然史博物館の知念淳子氏、MSCのCarrie Beauchamp (キャリー・ボウチャンプ) 氏、Bernie Watanabe (バーニー・ワタナベ) 氏、沖縄県ワシントン事務所の仲里和之所長、玉城勝也副所長、ジョージ・ワシントン大学図書館のKristen Luck (クリステン・ラック) 博士、国務省教育文化局のAnne Compton (アン・コンプトン) 博士、日本大使館の三宅史人 公使兼日本広報文化センター所長、鷺坂真聡 広報文化班参事官、高安藤氏、高良倉吉氏、小野まさ子氏、里井洋一氏、園原謙氏、與那嶺一子氏。

## 註

<sup>1</sup> 沖縄県文化財調査報告書第124集『在米国沖縄関連文化財調査報告書』沖縄県教育庁文化財課 1996年

沖縄県文化財調査報告書第139集『在欧沖縄関連文化財調査報告書』沖縄県教育庁文化課 2000年

<sup>2</sup> 與那嶺一子「The Smithsonian Institution's Museum Support Centre (MSC) における1887年所収の琉球コレクション」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要No.10』沖縄県立博物館・美術館、2017年

<sup>3</sup> 高良倉吉、玉城朋彦編『琉球放送創立40周年記念出版 ペリーと大琉球』、琉球放送株式会社、1997年



<sup>4</sup> Chang-su Houchins, “Artifacts of Diplomacy : Smithsonian Collections from Commodore Matthew Perry’s Japan Expedition (1853–1854)” Smithsonian Institution Press, 1995年

<sup>5</sup> 本事業は、株式会社日本旅行沖縄を受託者として実施した。

<sup>6</sup> 浦添市教育委員会『琉球王国評定所文書』第七巻、1991年掲載、1853年5月12日付  
本報告で一例として挙げた他にも、琉球側から頻繁に様々な品物が贈られていたことが記録されている。

<sup>7</sup> 先行研究 (Chang –su Houchins 1995) でも薩摩焼とされている。








<sup>8</sup> No.17 E128299–0 のPouch & Towel (宝蔵) は、先行研究 (與那嶺2017) で既に調査されていたが、マイクロスコープでの撮影等はされておらず、調査データとして必要だったため、調査対象とした。

<sup>9</sup> 佐々木利和・萩尾俊章・與那嶺一子「農商務省より独逸宛の沖縄関係物品目録について(上)」『沖縄県立博物館紀要』第22号、沖縄県立博物館、1996年および祝嶺恭子編『ベルリン国立民族学博物館所蔵 琉球・沖縄染織資料調査報告書 (資料編・図版編)』一般財団法人沖縄美ら島財団、2014年

## 一覧表

調査No	所蔵No	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
1	E20-0		Lidded Lacquerware Box (Meshi-Bako; Bento)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 9 Mar 1859	縦 23.0、横 24.3、 高さ 6.5、厚み 1.0	木製の飯箱。外側は黒で内側が朱塗り。ふた中央に菊を描き、四角で囲んだ外側に梅、松、竹が描かれる。見込みの板と側面の板は木釘で留められる。琉球以外で製作されたものと思われる。未使用品。
2	E21-0		Lidded Lacquerware Box (Meshi-Bako; Bento)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 9 Mar 1859	縦 20.0、横 21.5、 高さ 5.5、厚み 0.7	木製の飯箱。外側・内側とも朱塗りで底部は黒塗り。見込みの板と側面の板は木釘で留められる。所々塗膜が剥がれて木地が露出している。琉球以外で製作されたものと思われる。未使用品。
3	E282-0		Pottery Water Pitcher (Mizu Sashi)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 1854	総高 23.7、口径 9.0、 厚み 0.5、身高さ 14.5、 蓋の径 9.6、蓋高さ 3.5	ろくろ成形。全体を黒釉で覆い、蓋と肩に、Z状に海鼠釉を流し描く。内側にも透明釉をかけ、注ぎ口の穴が5つあけられている。蓋裏は無釉。注ぎ口の周辺を中心に砂粒が付着している。高台内にろくろ目があり、薄く黒釉が付いている。高台は無釉。使用感がなく、未使用品と思われる。
4	E172-0		Covered Pottery Jar, For Tea (?) (Chaki?)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 1859	総高 10.0、口径 10.4、 厚み 0.3、身高さ 9.0、 蓋高さ 2.0	内側にろくろ目のような痕跡あり。全体を黒釉で施しているが、蓋内側は露胎。底部に刷毛で薄く釉薬を塗布している。底部に凸字で「信號」の判子(約1cm)。蓋と見込みがなだらかな弓状にやや盛り上がる。とても薄造りで軽量。使用感がなく、未使用品と思われる。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
5	E176-0		Covered Pottery Jar, For Tea (?) (Chaki?; Choka?)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 1859	総高 6.8、口径 5.8、 厚み 0.3、身高さ 6.3、 蓋高さ 0.8	特徴は E172-0 と同じ。 蓋の天が平らで、盛り上 がっていない点のみ異なる。 。
6	E27-0		Belt (Obi)	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : 1854	長さ 361、幅 18.7	博多帯。紺の地色に、白、黄、 黒の色糸を使い、2種類の 経浮織を入れている。糸は 絹で無撚の単糸。表の一部 に少し退色が見られる。
7	E35-0		Smoking Pipe	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : June, 1853 Or July, 1854	・全長 26.5 ・雁首長 5.5、直径 1.1、 肩部長 2.2 ・火皿の直径 1.3、厚さ 0.1 ~ 0.1 弱、高さ 0.9 ・吸口長 7.0、外径 1.1、 内径 0.9 ・口付の外径 0.5、内径 0.3、厚さ 0.1 ・羅宇 (見える部分のみ) 長 16.5、外径 0.8、 内径 0.4、厚さ 0.2	雁首と吸口は真鍮製、羅宇 は竹製。雁首・吸口は真鍮 の板を筒状に丸めて溶接。 雁首の溶接痕は吸口側から みて左側にあり。火皿は鍛 造後、雁首に溶接。口付は 鍛造後に削って整形。羅宇 の表面に紗綾紋が転写。地 は着色なし。雁首の右側に 「清合」銘あり。未使用品。
8	E36-0		Smoking Pipe	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : June, 1853 Or July, 1854	・全長 25.1 ・雁首長 3.6、外径 1.1、 内径 0.9、厚さ 0.1 ・火皿の直径 1.1、厚さ 0.1、高さ 0.7 ・吸口長 4.1、外径 1.1、 内径 0.9、厚さ 0.1 ・口付の外径 0.8、内径 0.5、厚さ 0.15 ・羅宇 (見える部分のみ) 長 23.6、外径 0.7、 内径 0.4、厚さ 0.15、 中央部分は直径 0.9	雁首と吸口は真鍮製、羅宇 は竹製。雁首・吸口は真鍮 の板を筒状に丸めて溶接。 雁首の溶接痕は吸口側から みて左側にあり。火皿は鍛 造後、雁首に溶接。口縁は 内側に折り曲げている。雁 首と脂返し、吸口部と肩部 の境目には明確な稜線があ る。羅宇の地は着色なし。 未使用品。
9	E37-0		Smoking Pipe	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : June, 1853 Or July, 1854	・全長 26.4 ・その他は E35-0 と共 通するので省略	E35-0 と共通するので省略 ※銘も有り
10	E38-0		Smoking Pipe	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : June, 1853 Or July, 1854	・全長 25.2 ・雁首長 3.1、直径 1.1、 肩部長 1.4 ・火皿の直径 1.4、厚さ 0.05、高さ 0.9 ・吸口長 5.0、外径 0.9-1.0、内径 0.8、 厚さ 0.1 ・口付の外径 0.4、内径 0.8、厚さ 0.1 ・羅宇 (見える部分のみ) 長 18.4、外径 0.7、 内径 0.5、厚さ 0.1	雁首と吸口は真鍮製、羅宇 は竹製。雁首・吸口は真鍮 の板を筒状に丸めて溶接。 雁首の溶接痕は吸口側から みて右側にあり。火皿は鍛 造後、雁首に溶接。口縁を 内側に削って整形。口付の 部分は斜めに整形されてい る。羅宇の表面には列点を 円状に配した連続模様が転 写。地は着色なし。未使用 品。
11	E39-0		Smoking Pipe	旧蔵者 : Perry, M. C. 所蔵年 : June, 1853 Or July, 1854	・全長 25.0 ・雁首長 3.9、外径 1.1、 内径 0.9、厚さ 0.1、 肩部長 2.1 ・火皿の直径 1.4、厚さ 0.1、高さ 0.6 ・吸口長 5.4、直径 1.1 ・口付の外径 0.65、内 径 0.55、厚さ 0.05 ・羅宇 (見える部分のみ) 長 18.2、外径 0.8 ~ 0.9、内径 0.5、厚さ 0.15	雁首と吸口は真鍮製、羅宇 は竹製。雁首・吸口は真鍮 の板を筒状に丸めて溶接。 雁首の溶接痕は吸口側から みて右側にあり。雁首と吸 口の肩から小口にかけて清 が施されている。全体的に きれいに磨かれて滑らかに 成形されている。羅宇の地 は着色なし。未使用品。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
12	E40-0		Smoking Pipe	旧蔵者：Perry, M. C. 所蔵年：June, 1853 Or July, 1854	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全長 25.4</li> <li>・雁首長 3.6、直径 1.0cm、肩部長 2.3</li> <li>・火皿の直径 0.9、厚さ 0.05、高さ 0.6</li> <li>・吸口長 3.6、直径 0.9</li> <li>・口付の外径 0.6、内径 0.4、厚さ 0.1</li> <li>・羅宇 (見える部分のみ) 長 18.2、直径 0.8</li> </ul>	雁首と吸口は真鍮製、羅宇は竹製。雁首・吸口は真鍮の板を筒状に丸めて溶接。雁首の溶接痕は吸口側からみて左側にあり。火皿は鍛造痕が残るが丁寧に磨かれている。口縁は内側に折り曲げている。雁首と脂返し、吸口部と肩部の境目には明確な稜線がある。羅宇に鳥・柳・女性(遊女か)の図像が焼き付けられている。羅宇の地は着色なし。未使用品。
13	E41-0		Smoking Pipe	旧蔵者：Perry, M. C. 所蔵年：June, 1853 Or July, 1854	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全長 22.9</li> <li>・雁首長 4.6、直径 1.2、肩部長 2.2</li> <li>・火皿の直径 1.2、厚さ 0.1cm、高さ 0.6</li> <li>・吸口長 5.1、直径 1.2</li> <li>・口付の外径 0.6、内径 0.3、厚さ 0.15</li> <li>・羅宇 (見える部分のみ) 長 13.1、直径 0.9</li> </ul>	雁首と吸口は真鍮製、羅宇は竹製。雁首・吸口は真鍮の板を筒状に丸めて溶接。雁首や吸口の明確な溶接痕は見当たらない。表面が丁寧に磨かれている。口縁は内側に折り曲げられている。雁首に牡丹唐草文が魚々子で彫金、吸口に梅文とその周囲に魚々子のまとまりが彫金されている。羅宇の地は着色なし。未使用品。
14	E42-0		Smoking Pipe	旧蔵者：Perry, M. C. 所蔵年：June, 1853 Or July, 1854	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全長 20.0</li> <li>・雁首長 4.8、直径 1.1、肩部長 2.3</li> <li>・火皿の直径 1.2、厚さ 0.05～0.1、高さ 0.7</li> <li>・吸口長 6.6、直径 1.1</li> <li>・口付の外径 0.7、内径 0.4、厚さ 1.5</li> <li>・羅宇 (見える部分のみ) 長 8.6、直径 0.9</li> </ul>	雁首と吸口は真鍮製、羅宇は竹製。雁首・吸口は真鍮の板を筒状に丸めて溶接。雁首の溶接痕は吸口側からみて右側にあり。表面は丁寧に磨かれていて、内側に折り曲げられた口縁も丁寧に成形されている。羅宇の地は着色なし。未使用品。
15	E43-0		Smoking Pipe	旧蔵者：Perry, M. C. 所蔵年：June, 1853 Or July, 1854	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全長 19.1</li> <li>・雁首長 5.0、直径 1.1、肩部長 2.0</li> <li>・火皿の直径 1.2、口縁は薄く成形、高さ 0.7</li> <li>・吸口長 7.1、直径 1.1</li> <li>・口付の外径 0.8、内径 0.4、厚さ 0.2</li> <li>・羅宇 (見える部分のみ) 長 6.9、直径 0.8</li> </ul>	雁首と吸口は真鍮製、羅宇は竹製。雁首・吸口は真鍮の板を筒状に丸めて溶接。雁首の溶接痕は吸口側からみて左側にあり。全体的に表面が丁寧に磨かれている。羅宇の地は着色なし。未使用品。
16	NMNH A Art USNM 086441.00 — 086444.00		ウィリアム・ハイネの スケッチ	所蔵年：1853～ 1854年	台紙の縦 26.5、横 19.5	「Loo Choo Woman」のタイトルがつけられた、ペリーの日本遠征に参加したウィリアム・ハイネによるスケッチ。その他、日本本土の役人や女性を描いたスケッチも3枚ある。
17	E128289-0		Woman's Summer Kimono	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	丈 134.5、衿 64.0、 袖幅 34.0、袖丈 53.5、 腰の上げ幅 8.0、 上前幅 38.0、 下前幅 37.5、 後ろ幅 40.5	黒朝衣とよばれる芭蕉の着物。女性用とされているが、本作のようにあげが腰の位置に入る着物は男性用が多い。極上の細い糸で織った芭蕉布で、美しい光沢感がある。シワはあるものの状態良好。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
18	E128299-0		Pouch & Towel	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	宝蔵：縦 9.5、横 16.0 手巾：幅 32.2、 長さ 54.0 (結び目から計測)	煙草を入れる宝蔵に、紅型で染めた手巾が結び付けられている。宝蔵の模様は型染で金を定着させている。類例が少なく大変貴重な作例。
19	E128300-0		Towel Hanger	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	受け皿：全長 29.2、 幅 11.8、高さ 3.7	網代の受け皿は口縁に長めの竹が二重、短めの竹が二重で2枚巻かれている。吊り下げ用と思われる竹が14本あるが、糸の通し方が混乱している可能性が高い。
20	E128294-0		Model Of Hair-Arrangement	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	箱の横幅 15.5、 奥行き 15.8、高さ 8.0、 カラジ横 8.5、 奥行き 9.3、高さ 5.0、 かんざし長さ 12.2、 柄の幅 0.4、先端 0.5、 頭幅 0.8	人毛を結って後ろ側からかんざしを指す。カラジはフックス状のもので固められている。かんざしは鼈甲で六角柱。先に向かってやや膨らむ。
21	E128296-0		Straw Paper	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	34 枚の紙束：縦 25.5、 横 28.8、 78 枚の紙束：縦 23.0、 横 31.8	34 枚の紙束が2点と、78 枚の紙束が1点。78 枚の方が色が薄い。芭蕉紙か。繊維がととても多い。薄く、糸目と漉き目がはっきり確認できる。糸目は1枚に9本あり、まっすぐなものや湾曲しているものがある。
22	E128302-0		Pan Or Kettle With Cover	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	総高 10.0、口径 15.0、 厚み 1.0、身高さ 6.5、 蓋の径幅 12.5、 蓋高さ 3.0	壺屋の上焼。外側は黒釉、内側は白化粧に透明釉をかけている。底部は露胎で三つ足がつく。きめの細かい土はやや赤みがかったりしている。見込みは蛇の目に剥ぎ取られ、重ね焼きした様子。ろくる成形。
23	E128303-0		Furnace	"旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887"	高さ 10.5、口径 14.4、 厚み 1.0、幅 14.0、 高台径 9.5	鉛釉で施釉した壺屋の上焼。左右に獣面の耳がつく。側面に筋状の模様を線彫し、溜まった釉薬が黒色を呈している。内側に蓋をとめる突起があるものの、蓋は欠損。ろくる成形。未使用品。
24	E128304-0		Rice Bowl	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 6.0、口径 13.5、 高台高さ 1.0、高台径 7.0	薄造りで上質な壺屋の上焼の碗。全面を白化粧している。器形はふくよかで口縁部がわずかに反外する。見込みが蛇の目に剥ぎ取られる。高台に白化粧土が厚く溜まっている様子がある。
25	E128305-0		Bowl For Miso Soup	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 5.5、口径 13.5、 高台高さ 1.0、高台径 6.3	壺屋の上焼の碗。E128304 と器形が共通しているものの、高台が少し薄い。外側は黒味がかった鉛釉で、内側は白化粧。見込みに重ね焼きした際の付着物がみられる。
26	E128306-0		Bowl	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 4.7、口径 13.5、 高台高さ 1.0、高台径 6.5	壺屋の上焼の碗。ろくるで碗形に成形したあとに口縁部を波状に装飾している。口縁や高台など釉薬が溜まっている部分にピード口状に貫入があり、わずかに青緑がかった色をしている。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
27	E128307-0		Bottle For Warming Sake In	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 7.6、幅 10.5、 口径 3.8、底径 8.2	カラカラ。白化粧の上から緑釉、鉛釉、コバルト釉の3色で彩る。平たい形で、側面に花びらのように不均一に溝を刻む。中に何か入れているようで、ふるとカラカラと音がする。未使用品か。注ぎ口に少し欠けがある。
28	E128308-0		Small Cups For "Awamori", A Kind Of Brandy	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 1.9、口径 3.0、 高台径 1.6	ちぶぐわーと呼ばれる壺屋の上焼の碗3点。1点は高さがやや低い。ろくろ成形。白土で作っている可能性がある。口縁部がわずかに外反している。
29	E128309-0		Vases A Pair	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	高さ 18.5、幅 9.0、 口径 9.0、底径 7.3	対の花瓶。口縁部がラップ状に広がり。首の左右に耳がつく。高台はやや幅広。白化粧の上から線彫で梅模様を描き、コバルトで彩る。
30	E128310		Round Fans 3	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	団扇 A：最大幅 33.8、 全長縦 36.0、 持ち手長 10.5 団扇 B：幅 24.8、 全長縦 30.0、 持ち手長 9.3 扇：幅 33.2、 全長縦 24.0、 持ち手長 4.2	3点ともクバの茎を持ち手にして、葉を整えて団扇・扇に仕立てものである。団扇 A・B はクバの葉を丸くカットし、扇では葉を中央で2つに割って作られている。いずれも葉の先端を竹ひものようなもので縁に巻き込みなが全体をめぐらせている。
31	E128311		Water Pail	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	幅 34.0、奥行 27.5、 高さ 21.0	ウブル。クバの葉を軸にして葉の先端をまわして巻き込み片結びして持ち手にしている。
32	E128312		Teacup	旧蔵者：Department Of Education Japan 所蔵年：4 Apr 1887	右から順に 碗 A：口径 7.8、高さ 4.5、 高台径外寸 3.6、内寸 2.7、高台の高さ 0.5 碗 B：口径 7.8、高さ 4.7、 高台径外寸 3.9、内寸 3.3、高台の高さ 0.5 碗 C：口径 8.3、高さ 3.7、 高台径外寸 3.7、内寸 3.0、高台の高さ外側 0.5、内側 0.7 碗 D：口径 8.6、高さ 3.8、 高台径外寸 3.7、内寸 2.9、高台の高さ外側 0.8、内側 0.7	碗 A・B と碗 C・D の 2種類。碗 A・B は顔? のような文様が側面に1つずつあり、白化粧が厚くかかっている。透明釉もかかっている。文様は線彫で呉須をさしている。碗 C・D は口縁部が外反した碗であり、器壁が薄い。見込みに蛇の目があり、重ね焼きした形跡がある。
33	E129476		Saddle	旧蔵者：Tokyo Educational Museum 所蔵年：10 Aug 1887	鞍：全長 37.5、38.5、 高さ 23.0 クッション：(右側) 全長 39.0、幅 13.5 あぶみ：長 19.5、幅 5.0 くつわ：長 37.5、幅(最大) 3.0 竹製の管玉：長 3.7~7.0	木製の鞍と馬の身体に当たるクッションが一体となり、くつわやあぶみ、持ち手も紐でつながっている。紐や縄の状態もよいため、馬用品の良例である。
34	E419767		Rice Paddle	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	全長縦 23.4、幅(最大) 8.0、柄の長さ 11.0、 幅(最大) 3.5、 柄の厚み 0.7、しゃもじ部分の厚み 0.3~0.6	木製のしゃもじ。柄が黒く塗られている。しゃもじのすくう部分は平面に成形され、柄は若干膨らみを持たせた形である。柄の境目は楕円状に削られている。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
35	E419771		Wooden Tray	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	幅 20.2、縦 18.8、 厚さ 1.5	表面に「日光山」、裏面に「大正十五年八月十七日／中禅寺／登山記念／仲宗根」と文字が彫られている。表面は中央を円形に見込みとし、日光山の風景を彫り込んでいる。
36	E419784		Bowl-Stands	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	幅 11.1 (直径)、 穴の幅 4.8、 高さ外側 1.4、内側 1.8	無文、朱塗りの茶托である。全部で8点あり。
37	E419773		Lacquered Tray	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	直径外寸 21.0、 内寸 20.0、高さ 2.4	見込みに上部に「賞」と朱書きあり。ヤシの木・実を堆錦で加飾を施している。内側はベージュ色、側面は朱塗、裏面は黒塗。
38	E419776		Lacquered Tray	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	幅 34.5、縦 24.8、 厚み 0.7、高さ 3.7	見込みに金泥で「創立三十五周年記念／仲西小学校」、裏面に左下に二重丸文に「琉球米次製」と記される。表面は朱塗、裏面は黒塗。
39	E419774		Lacquered Tray	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	幅 22.8 (外側採寸)、 縦 22.6、厚み 0.3、 高さ 2.5	黒塗で、見込みに流水・菊文が箔絵で加飾する。裏面に中央に二重丸文に「琉球米次製」と朱で記される。
40	E419775		Lacquered Tray	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	幅 24.4 (外側採寸)、 縦 24.0、厚み 0.5、 高さ 2.7	表面は朱塗、裏面は黒塗。見込みに漆絵で実芭蕉（バナナ）文を描く。修理の手が入っている。
41	E419815		Saki Pot	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	口径 4.4、幅 10.8、 高さ 10.0、底形外寸 7.0、 内寸 4.5、穴の径 1.2	注口は欠けている。中に入っているものがあるので、カラカラと音が鳴る。
42	E419766-0		Samisen : Musical	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	全長 78.0、 糸蔵：長さ 3.7、幅 1.4、 野の長さ 42.5、 心：長さ 21.0、幅 1.6、 チーガ：縦 19.0、 幅 17.5、高さ 8.3	与那型の三線。糸蔵の中に金箔が貼られている。爪裏は総取り。放射状に細かいノミ痕がある。芯は塗りがされていない。薄く斜めのノミ痕が確認できる。弦はワイヤー。
43	E419850-0		Kimono	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	丈 105.5、衿 57.5、 袖幅 29.5、袖丈 32.7、 上前幅 23.5、 下前幅 24.5、 後ろ幅 33.0	白糸は芭蕉で、黒糸は木綿の経織着物。和琉折衷の仕立てで、広袖、身八ツ口が開き、棒衿で縫い付けられている。縫製は白い木綿糸。織密度は経16×横16/cm。

一覧表

調査No.	所蔵No.	写真	名称	来歴	法量 (cm)	所見
44	E419823		Leaf Sandals	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	長さ 24.0、幅 8.0、 高さ 3.5	植物を編んで作ったわらじ。未使用品。
45	E419824		Leaf Sandals	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	長さ 19.0、幅 9.0、 高さ 3.5	植物を編んで作ったわらじ。未使用品。
46	E419825		Wooden Shoes	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	長さ 24.5、幅 13.3、 高さ 6.0	ひとつの木材を削り出して作った下駄。粗めの削り出し。
47	E419826		Wooden Shoes	旧蔵者：Grant, R. W. 所蔵年：1945	長さ 20.8、幅 9.0、 高さ 5.7	ノミ跡が残っている。平らな面と足の材は別。左足の材は一部が飛び出していて製作途中だった可能性もある。
48	E402851		Kimono	旧蔵者：Mrs. Frank O. Blake (Beth M.) Blake 所蔵年：24 Jun 1964	丈 162.0、衿 58.0、 袖幅 34.5、袖丈 58.0、 上前幅 30.5、 下前幅 30.0、 後ろ幅 36.5	旧蔵者のフランク氏は柳宗悦から本作を譲り受け、柳は尚侯爵から購入したとの記録あり。王家旧蔵品の可能性がある。 2種類の木綿布を使った単衣の紅型衣裳。片面染めで、糸を解いた痕が多数あるため、元々は袷だったと考えられる。広衿、広袖。昔展示されていた影響で左肩が褪色している。織密度は鶴松模様が経26×横20/cm。梅模様が経27×横21/cm。
49	E402899		Cloth Okinawa	旧蔵者：Mrs. Frank O (Beth) Blake 所蔵年：27 Jul 1964	幅 34.0、長さ 97.2	白地に紺の芭蕉布裂。片側は絶ち目、もう一方は1cmごとに針目があり、解いた形跡がある。糸が細く均一で、上質。織密度経23×横15/cm。
50	E402268		Length Of Cloth - "Tisaji (Yontan Hanawi)"	旧蔵者：Government Of Ryukyu Islands 所蔵年：11 May 1964	縦 57.0、横 26.0、 房の長さ 9.5	木綿紺地に紺と花織で模様を表した手巾。色糸は絹と木綿。







